

ふるさと兵庫 見て歩き

Vol.2

民話のふるさと 岩崎の魅力を再発見！ の巻

2月19日 岩崎探ではまっ白に雪化粧をした冬景色に出会いました。ふりしき皑雪は、音もなく岩崎川の清流に溶け岸辺の水草とたわむれる。時おり透き通るような青空がのぞきます。厳しい寒さにじっと耐える草木に温かい陽射しをふり注ぎ、春はもうすぐよと囁きかけます。早春の岩崎は幼い日に聞いた懐かしい昔話を思い出し、ほっこり心がなごむ優しい民話のふるさとでした。



岩崎の昔話を聞かせて下さい！



お宝鑑定 八方睨みの寅の図



巻物をひもとき歴史をたどる



鴨居には長刀・ほこが掛かる



春の訪れを待つツバメの巣



輿入れのお駕籠が軒先に



大蛇の伝説が残る民話の里 岩崎

岩崎の民話 と珍しい行事「はっさく」のおこり
昔、岩崎村の山奥の池に大蛇が住んでいるとされていた。ある夜、大蛇が老人の夢枕に立ち「谷から出たいので通してほしい」と言う。村で話し合いの末、田畑に被害が出るので出さない事にした。大蛇は再び夢枕で「蛇杭を打つと出られないので止めてくれ」と言った。しかし、村人は蛇杭を打ち大蛇を閉じ込めてしまふ。ある晩、雷鳴が轟き大雨となり地鳴りがした。翌朝、谷筋一面が泥の海となり田畑は埋もれてしまった。山肌が裂け大蛇の池は跡形も無い。大蛇が大雨の勢いにのり谷を下って行ったのだろう。旧暦の8月1日、縄で編んだ大綱を大蛇に見立て、村人全員で綱引きをする「はっさく」は大蛇を退治し豊作を祈願する行事です。綱がうまく切れると大蛇を退治したと村中で農作業を休み祝ったのだそうです。この民話に因んだ珍しい行事が復活されました。はっさくの綱引きで民話のふるさと岩崎を楽しみたいものです。

春を待つ



宮島白屋さん 匠のワザに出会う



大正九年創業 こだわりの手作り！白



匠の道具 その一



匠の道具 その二



手作り白に見入る



年輪が美しい樺の白



大歓迎？ 岩崎今より来たならワンワン

記録: T i o クラブ 西本佳子
659-0067 芦屋市茶屋の町7-12
T:地域で i:いきいき o:面白く